

## 泥の感触楽しみ田植え

丹波支援学校生が米作り

南丹



地域の休耕田を活用して田植えをする丹波支援学校の生徒たち(南丹市八木町)

南丹市八木町の丹波支援学校の生徒が、地域の休耕田を活用して米作りに挑んでいる。今月の田植えでは、ぬかるむ水田に足を取ら

れながらも、一つずつの苗を丁寧に手植えた。同校近くの休耕田2ヶを借り、キヌヒカリの米作りを8年前から

続けている。中学部約50人は4日、靴下をはいて田んぼに入った。足を泥だらけにしなが、ロープに付けた目印に合わせ等間隔で苗を植えた。

初めて田んぼに入っただという1年仲里成弥さん(12)は「泥でぬるぬるしていて植えるのは難しかった。稲が大きくなったら食べてみたい」と話した。

生徒は観察記録をつけて、生育を見守る。10月に稲刈りし、収穫した米は給食で出し、地域へ配つたりして感謝を伝える。

(長谷川稔)